

東三河に朝が来た

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

2月21日夕、豊橋駅前のホテルアークリッシュ豊橋で、太田昭宏前国土交通大臣を囲む懇談会が開催された。盛大な拍手で迎えられた太田前大臣に東三河の首長、政治、産業界などから約100人が集い、太田前大臣の2年10カ月にわたる東三河への尽力に感謝の言葉を述べた。

会を主催した東三河広域連合経済委員会長の吉川一弘氏の開

心から、感謝したい」とお礼を述べながら大要、次のような話をした。

決定に署名した一人として、専守防衛という憲法の範囲を守らせていただいた安保法制に象徴されるこの国の備え。

なければならない。国内的にはデフレを脱却して、未来志向する政治ができるようになってきたこの時を、ラストチャンスと捉え、全てに手を打たなければなりません。

来年の4月には消費税が上がり、増大する社会保障費、また財政再建をどうするかという根本的な課題をどう克服し、団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題をどう

に入っている中で、その中で日本全体の優秀なプレーヤーと優秀なプレーヤーと、この東三河地域に大いに注目しているところだ。

して、東三河の広域連合が、浜松、飯田と結んで、新しいポテンシャルを生かして、さらにこの地域の発展のために尽力してまいりたい。

最近の躍進が著しいスポーツも伝統ある観光も含めて地方創生の全国モデルになる東三河に押し上げていく事が大事です。

安倍内閣の今、一番の関心事は何から。世界の経済が波打っています。サウジと

これらの動きを踏まえて5月の伊勢志摩サミットで「日本

60年前の経済白書に「もはや戦後ではない」と書かれていたが、同じように今年「もはやデフレではない」という基礎を作ることができるかどうかにかかっています。

のように乗り切るか、一番大事な問題です。

東三河のこの地域に第二東名が通り、コンパクト+ネットワークで各地域の個性を生かしながら、対流現象がおきるような三遠両信地域に

長年親交を深めてきた神野信郎氏は「インフラのネットワーク化は私たち東三河の悲願でございます。今後ともい

ける」と話してくれました。太田さん、まだ道半ばです。この国とこのまちのためにますます頑張ってください。そして、それができると話してくれました。太田さん、まだ道半ばです。この国とこのまちのためにますます頑張ってください。そして、それができると話してくれました。

太田前 国土交通大臣を囲む懇談会

イランの国交断絶で始まり、中東情勢の行方はどうなっているのか、中国経済の衝撃

3年続く、安定した安倍政権を背景に世界の政治や経済の安定に全力を傾注し

60年前の経済白書に「もはや戦後ではない」と書かれていたが、同じように今年「もはやデフレではない」という基礎を作ることができるかどうかにかかっています。

東三河だけのなく、全国は人口減少、高齢社会、災害対策、ICTの急速な進展、激しい都市間競争のなかで生き残り競争

東三河のこの地域に第二東名が通り、コンパクト+ネットワークで各地域の個性を生かしながら、対流現象がおきるような三遠両信地域に

長年親交を深めてきた神野信郎氏は「インフラのネットワーク化は私たち東三河の悲願でございます。今後ともい

ける」と話してくれました。太田さん、まだ道半ばです。この国とこのまちのためにますます頑張ってください。そして、それができると話してくれました。